

「あなたの心がおごらないように」

士師記
ペトロの手紙一

第7章 1節～7節、16～22節
第3章 8節～9節

説教 市川和恵 牧師
(大和キリスト教会牧師)

士師には勇ましいイメージがありますが、ギデオンは勇者と言うにはほど遠いひ弱な逃げ腰の人でした。神から隠れようと農作業をしていました。しかし、神からは隠れる事は出来ません。気の小さなギデオンは、何度も主を確認しています。本当に気が弱いのです。

しかし、やっとギデオンが主の召しに応えようとすると、主は驚く事を言われます。「あなたの率いる民は多すぎる」これであなた方の手にミディアン人を渡せば、「わたしに向かって心がおごり、自分の手で救いを勝ち取ったと言う」と言われ(2節)、「民にこう呼びかけて聞かせよ。恐れおののいている者は皆帰り、…山を去れ」こうして、「一万人が残った。」(3節)と書いてあるのです。しかし、神は、それでも多いと言われました。驚くべき言葉です。私達は、多い方が勝ち目があるように思います。多い方が力が出ると思うのです。しかし、主は、おごる者となるな、謙虚であれ、と招いておられます。

そこで、次に言われるのは、「恐れおののいている者は帰れ」、「民は多すぎる」と言われます。帰れ、とは、何と厳しい響きでしょう！見捨てられたように感じます。しかし、これは何よりも謙虚さを求めておられるのです。謙虚になって家で待て、と言われているのです。傲慢が徹底的に叩かれています。

そして、次は、水の飲み方。膝をついてかがんで水を飲む者は帰され、水を手にくくってすすった者だけを三百人選ばれたのでした。身をかがめて水を飲むのは、敵に対して無防備だという事。私達にも、サタンの攻撃に対して無防備な者は闘えないと言われているのです。

私達を取り囲む環境は、サタンの試みに常に曝されています。サタンは、攻撃的であったり、時には、優しい声で手を組もうと語りかけてきます。そんなサタンの試みを侮ってなりません。

だからこそ、主が神のひとり子であるのに、人間としてサタンの試みにあって下さったのです。そうです、私達に語りかけてくるサタンの攻撃、

自分の力ではどうにもならないサタンの攻撃を主が私達に先立って受けて下さいました。十字架で、私達が審きを受けなければ赦され得ない私達の神に対する罪を負って、死んで下さいました。この罪人の罪の故に神の御子が人となって審きを受けて下さいました。我らに先立って神の御子にしかできない死に打ち勝って下さったのです。

主は、御言葉をもってサタンを退けられました。私達の戦い方を教えて下さっているのです。こうして、私達に御言葉でサタンの攻撃から身を守れ、キリストを着よ、キリストの徹底した謙遜の服を着よ、と示されているのです。

主は闘えと言われますが、主が与えて下さる知恵を持って闘う闘い方を示されるのです。角笛とたいまつだけで闘う闘い方。ミディアン人は、角笛とたいまつだけで闘おうとしている等つゆだにも思っていなかった。しかも角笛を吹く者とたいまつを持つ者が同じ者だ等とも思えなかったでしょう。彼らは、慌てふためき、味方と敵を間違えて自ら負け戦をしたのです。

これは、神からの言葉に従って闘ったギデオンの信仰の故。自分は弱い、不信仰だ、自分に闘う力などないと非力を認めて神に依り頼んでいるのです。ここに、勝利の秘訣が隠されています。

私達にも様々な闘いがあります。しかし、自分の弱さに本当に打ち砕かれて謙虚であるか、顧みなければなりません。

自分・自分・自分となって權威にこびては、いませんか？単なる恐がる者であり、犬のように無防備な水の飲み方をする者ではありませんか？自分・自分・自分と、自分中心、自己主張ばかりの歩みをしてしまっていないですか。

既に主が勝って下さっているのですから安心して主が示される主の闘いの道、それは血潮したたる主の愛の道です。その道を歩いていこうではありませんか。大丈夫です。キリストを着せて頂いているのですから。

(記 市川和恵)